

アクセス(J4700)

独立系システムインテグレーター。金融機関に強みを持つ。旧本社及び周辺不動産売却で累損一掃、復配、財務体質大幅改善。パートナー戦略拡充、独自ソフトであるプラネットを拡販へ。不採算案件なくなり今期より収益回復歩調へ。

レーティング
前回 今回
- NR
株価(6/11)
184000円

連結業績動向

(単位・百万円、%、円)

決算期	売上高		営業利益		経常利益		純利益		1株当たり	
	金額	伸率	金額	伸率	金額	伸率	金額	伸率	利益	配当
2006/3	1,980	32	2,131	赤転	2,257	赤転	2,374	赤転	--	0
2007/3	2,313	17	922	赤転	971	赤縮	6,683	黒転	121,652	特5000
2008/3予	3,410	47	260	黒転	315	黒転	175	97	3,182	1000
2009/3予	3,900	14	350	35	550	75	300	71	5,455	1000

予想は当調査部

〔主要データ〕	PER(倍)	PBR(倍)	ROE(%)
2008/3予	57.8	0.6	1.0
2009/3予	33.7	0.6	1.7

時価総額 101億円 市場 ジャスダック
発行済株式数 55,000株 売買単位 1株

<注目点、投資判断>

財務体質大幅改善

前07.3期は営業・経常利益段階での赤字縮小なるも、期初予想の赤字幅(経常利益 391百万円)に比べると拡大した。これは、不採算案件の開発コスト増大が大きく影響した。また、韓国にて行っていた開発案件において、取引先との交渉が難航。当該プロジェクト継続の場合のリスクを検討した結果、本プロジェクトの中止と韓国市場からの撤退を決定。関連費用を特別損失に計上した。

財務体質改善のために旧本社及び周辺不動産を売却(売却益11,416百万円)し、純損益は黒字転換、累損一掃。同時に有利子負債は06.3期末3,862百万円が前07.3期末0となり、1株純資産は06.3期末185,489円から前07.3期末307,155円へと大幅に好転。不動産売却に伴う株主還元策として、普通配当1,000円、特別配当4,000円、都合期末配当金は5,000円とする。加えて上限7億円、上限2,500株の自社株買い(5月末取得株数992株)を実施中。

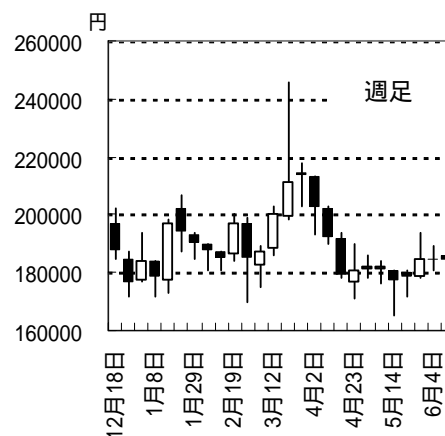
今期経常黒字転換へ

今08.3期連結予想は会社予想並みを見込む。期初手元流動性は17,398百万円だが金融収支受超55百万円の想定。資金運用の本格化は7月以降の見通し。連結対象は日本保証システム(NHS)のみ。顧客先であったNHSを子会社化し前下期より連結対象。NHSの事業である賃貸サポート事業は売上高5.5億円、ほぼ営業益均衡見通し。単体の業績動向だが、不採算案件は前期で終了し今期に影響はない。業種別顧客別でみた単体での業績牽引役は金融向けとサービス向け。このサービス向けだが、信用貸付個人情報センターの3者(消費者金融、クレジットカード、銀行)交流による借り入れ情報の共有化プロジェクトのシステム開発で今期以降3期にわたる見込み。パートナー戦略拡充、独自ソフトであるプラネットを拡販へ。なお、プロジェクトを中断した韓国における開発案件について訴訟リスクが発生しており、365百万円の損害補償請求がソウル中央裁判所に提訴されている。株価は、今期予想PBRが0.6倍と1倍割れで割安と思われるが、今後の受注動向を注視したく株価レーティングはNRとする。

<業種別単体売上高推移> (百万円)

	06.3期	07.3期	08.3予
金融	641	713	975
製造	39	283	400
流通	447	291	60
サービス	637	561	1,380
その他	120	122	45

出所)取材により当調査部作成



このレポートは投資の判断となる情報の提供を目的としたものです。銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願い致します。株式は値動きのある商品であるため、元本を保障するものではありません。

株価レーティングは当該銘柄の今後6カ月間における株価判断です。「A」は「買い」、「B+」は「やや強気」、「B」は「中立」、「B-」は「やや弱気」、「C」は「売り」との株価判断です。なお文中の「長期」は2年超5年以内、「中期」は6カ月超2年以内、「短期」は6カ月以内を指しています。